

企業探訪

TOP INTERVIEW

みずみかい 医療法人 美湖会 美浦中央病院

理事長 岩瀬 剛 氏
理事 岩瀬 剛健 氏
顧問 鈴木 健一 氏
看護部長 野口美恵子 氏
事務長 今井由美子 氏



医療と介護を通して 人々に奉仕し 幸福を提供する

住所：茨城県稲敷郡美浦村宮地 596

設立：1980年

職員数：365名

診療科目：人工透析・内科・外科・整形外科・眼科・耳鼻科
皮膚科・泌尿器科・リハビリテーション科・歯科

インタビュー日：2021年9月24日

〔聞き手：筑波総研(株) 代表取締役社長 野口稔夫〕

〔写真・図作成・編集：筑波総研(株) 主任研究員 富山かなえ〕

取引支店：(株)筑波銀行 美浦支店



美浦中央病院正面玄関



医師を志した理由を語る岩瀬理事長



院内には大リーグで活躍中の大谷翔平選手のポスターが多数飾られている



インタビューの様子

幼少期に病気の人を助けることに興味を持ち始める

私は、“日本のチベット”といわれる岩手県の大自然の中で育ちました。岩手県には多くの偉人がいますが、特に、大リーグで大活躍している大谷翔平野球選手は、岩手県が生んだヒーローだと感じています。院内の壁には大谷選手のポスターを多数飾っています。

医師を志した理由は、青森県八戸市内で小児科医院を開設している叔母の夫の診察風景を何度も見学したことで、病気の人を助けることに興味を持ったからです。また、男4人兄弟の中で最も学校の成績が良かったこともあり、父からも医学部進学を勧められました。

高校生の時に上京して勉学に励み、1970年、慶応義塾大学医学部に入学しました。大学1年生の時、公益財団法人YFU日本国際交流財団から「Exchange Student Program」の招待を受け、ニクソン大統領政権時代に1年間アメリカへ留学しました。前半の半年間はアリゾナ州ツーソンにある高校へ通い、後半はコロラド州プエブロの大学に入学しました。

アメリカに2度留学し最先端の医療技術を学ぶ

留学では、アメリカ流の「How to」や人を惹きつけるスピーチの仕方、社会システムの仕組み、そして、「アメリカンドリーム」の魅力を学び、驚愕しました。

また、大学6年生の時、レーガン大統領が政権を担う時代に、再度アメリカへ留学しました。留学先は癌研究に専念する世界初の研究所として、1898年、ニューヨーク州バッファローに設立されたバッファロー大学病理学研究所（現ロズウェルパーク総合がんセンター（Roswell Park Comprehensive Cancer Center））です。

同研究所で3ヶ月間研修したことで、アメリカの先進的な医療体制の偉大さに大変感銘を受けました。

6か所の総合病院勤務を通して 医療に関する経験を蓄積

私は慶應義塾大学医学部を卒業し、同大学病院の整形外科教室へ入局しました。その後、整形外科医として、1978年に神奈川県伊勢原協同病院、翌年に東京都の済生会中央病院、1980年に大田原日赤病院（現 那須赤十字病院）、1982年に慶應義塾大学病院、翌年に国立塩原温泉病院（当時）と、8年間で6つの総合病院に勤務し、多くの経験を積みました。

そして、1983年11月、医療法人美湖会「美浦中央病院」の院長に就任しました。また、1992年11月には医療法人美湖会、翌年には社会福祉法人筑和会が運営する介護老人福祉施設「宝永館」、2013年には社会福祉法人朱白会の理事長にそれぞれ就任しました。

一般病床と療養型病床を持つ 「ケアミックス」の病院に

当院は開業してから39年の月日が経ちました。現在、美浦中央病院（ベッド数：186床）のほか、特別養護老人ホーム6か所（ベッド数：460床）、介護老人保健施設5か所（ベッド数：480床）、グループ全体で1,126床を運営しています。

また、当院は美浦村唯一の救急告示医療機関（救急指定病院）です。一般病床60床、療養病床126床、人工透析190名分の設備を完備し、手術も年間200件以上行っています。

介護老人保健施設や特別養護老人ホームの運営事業を展開している理由には、2000年頃から高齢者人口が増加しはじめたという社会背景があります。経営者の視点で見ると、大きなマーケットであり、非常に興味深いと感じました。

そこで私は、当院を「Care-mix（ケアミックス）」の病院に成長させることを目指しました。ケアミックス病院とは、一般病床と療養型病床の混合型病院を意味します。当院は一般の患者様と高齢者の方、両方の診察、救急医療や手術、さらに人工透析にも対応できるよう当院を変革させていきました。



美浦中央病院透析センター

茨城県南部で 最大級の人工透析施設を完備

当院の人工透析は、2001年に開設し、当初は7床でスタートしました。患者数の増加に伴い、2004年4月には30床に増床、さらに2013年には50床に拡大しました。2021年にさらに26床増床し、現在トータルベッド数76床となりました。

当院の人工透析は、茨城県南部で最大規模を誇る一つの施設となりました。

実は、当院が人工透析を始めたのは、たった一人の稲敷市の患者様の声でした。「美浦に透析のできる病院を作ってほしい」。その言葉を聞いて、設備導入を決意しました。

当院の透析施設の特徴として、次のようなことがあります。当院の近隣に2か所の特別養護老人ホーム、2か所の介護老人保健施設があり、そこに入所しながら当院のバスを利用して通院し、当院の透析を受けることができるということです。老人ホームの生活は、病院と比べ人間らしい豊かな生活が可能です。これらの施設を利用しながら透析を受けたいという患者様が増えています。



セミナーの様子を語る野口看護部長

「Vision」を共有し 組織の「DNA」に刻む

当グループの目指す「Vision」は、右図の通りです。私たちは、5つの「Vision」を実現するため、全職員が「Passion（熱意）」「Honesty always（常に正直に）」「Trust（信頼）」「Smile（スマイル）」「Calmness（平常心）」「Humbleness（謙虚）」を大切にすることで、組織の「DNA」を次の時代へ継承したいと考えています。

また、2021年7月から3回にわたり、当院の看護部長である野口氏が中心となり、全グループの管理職を対象とした「これからの法人を考える」というセミナーを開催しました。

セミナーでは、管理者の役割やマネジメントプロセスの振り返りのほか、SWOT分析を行い、各施設の強みと弱み、脅威などを分析し、「Vision」に照らし合わせ、今後の戦略を明確化し、グループ全体で強い経営を行えるよう体制の強化に努めました。

「ゆりかごから墓場まで」 地域に寄り添う事業を展開

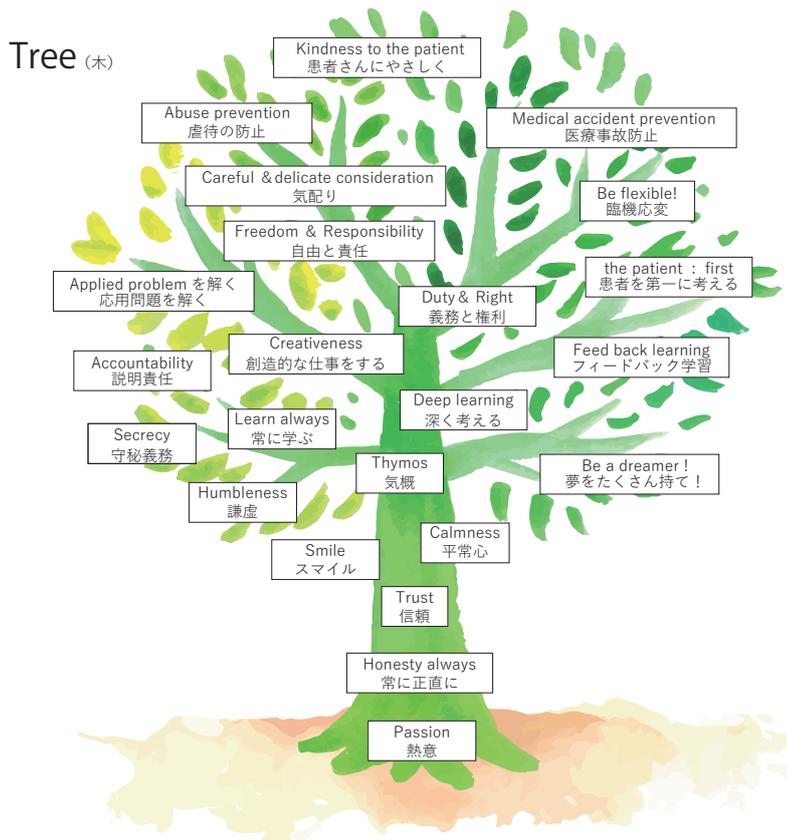
医療をビジネスと捉えるのであれば、超高齢化社会の中でも強い気概と「Vision」を大切にしながら事業を展開したいと考えています。

また、今後は、龍ヶ崎市内に保育所を開設する予定です。保育園運営事業は、当法人の顧問で、社会福祉法人朱白会の業務執行理事である鈴木氏に一任しています。

龍ヶ崎市長も完成を楽しみにされていると聞いておりますので、ご期待に応えられるような運営をしていきたいと考えています。

今後も皆様のご期待に添えるよう、「ゆりかごから墓場まで」をモットーに、地域の医療と介護へ貢献していくため、積極的にプロジェクト展開して参ります。

Vision



- 1 医療と介護を通して、人々に奉仕し幸福を提供する (Provide the happiness & welfare to the people through medical care & nursing)
- 2 私たちは public servant (公的奉仕者) である
- 3 職員皆さんの生活を守る (Protect the livelihood of the staff member)
- 4 Innovation to the future (産業の芽を深く常に考える)
- 5 茨城県のユニコーンを目指す (Unicorn dream)

Soil (土)

T.IWASE
2021 July



岩瀬理事長 (前列中央)、岩瀬理事 (前列左)、鈴木顧問 (前列右)、野口看護部長 (後列中央右)、今井事務長 (後列中央左)、筑波銀行美浦支店 殿塚支店長 (後列左)、聞き手・野口稔夫